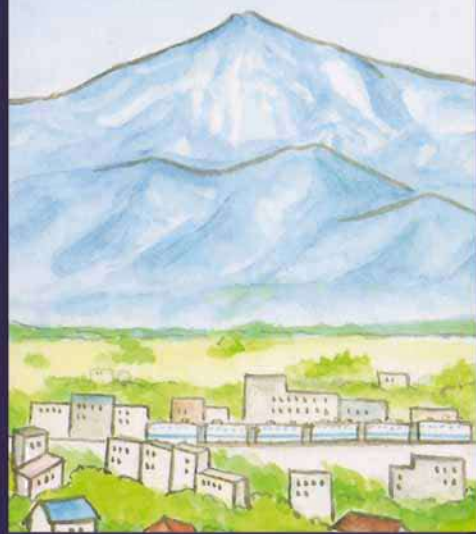


る



る

絵のよ  
うな

阿夫利嶺望む

相武台

相武台の由来

阿夫利嶺は大山のことで、昔から雨を降らせる農業の神さまとして信仰されています。座間から見ると大山の姿は雄大で、見る人に感動を与えずにはおきません。相武台の地名は、昭和十二年、現在の座間キャンパスのところへ陸軍士官学校が開校したとき、天皇が学校所在地を相武台と命名されたことに由来しますが、字名として使用されたのは昭和三十五年からです。この地域には、大正時代の末から人が住むようになり、今日では市内で一、二位の商業地域となっていますが、当時は、大山のすばらしい姿をよくながめることができたそうです。

る